

九州農政局管内の スマート農業取組事例

九州農政局
令和8年9月

【利用上の注意】

- この「九州農政局管内のスマート農業取組事例」は、農作業及び農業経営等においてICTやロボット技術等を導入した農業者の取組事例を広く知っていただくことを目的としたものであり、事例の中で使用されている技術やスマート農業製品の効果等を九州農政局が推奨・認定するものではありません。
- 各事例のお問合せについては、下記担当までご連絡下さい。

お問合せ先：九州農政局生産部環境・技術課

TEL：096-300-6272

目次

No	営農分類	タイトル	県名 (市町村)	経営体名	技術分類									
					ほ場管理 システム	自動走行	可変施肥 収量アップ	水管理 システム	環境 制御	鳥獣害 対策	ドローン	搾乳 システム	給餌 システム	その他
1	水田作	スマート農業技術を活用した水稻栽培の作業省力化	宮崎県 (西都市)	株式会社三共作業場	●	●		●						
2	水田作	水田センサーの導入による的確な営農指導	宮崎県 (えびの市)	えびの産米特A産地化プロジェクト				●						
3	水田作	中山間地域の水田管理の省力化を目指して	宮崎県 (西臼杵郡)	農事組合法人 高千穂西の風				●			●			●
4	水田作	大規模化した早期米の短期間での作業対応と、KSASIによるデータ管理	鹿児島県 (南さつま市)	松木貴弘	●	●								●
5	水田作	ロボットトラクターや農業用ドローン導入による農作業の時間短縮及び負担軽減	鹿児島県 (始良郡)	有限会社ハシモト		●					●			
6	水田作	営農支援システムを基幹に多種類のスマート農機等を活用	大分県 (国東市)	株式会社松原ファーム	●	●		●			●			●
7	水田作 畑作	町(福岡県筑前町)がスマート農業推進のためRTK基準局を設置	福岡県 (朝倉郡)	福岡県 筑前町		●								
8	水田作 畑作	スマート農機等の導入による作業効率化と生産性の向上	熊本県 (上益城郡)	株式会社藤瀬農園		●			●					
9	水田作 畑作	ほ場管理システム及び自動操舵補助システム等の導入による作業の効率化	大分県 (宇佐市)	酒井 勝洋	●	●								
10	水田作 畑作	中山間地域の農地保全と所得向上を目指して	宮崎県 (えびの市)	株式会社ファームヤマザキ		●					●			
11	水田作 畑作	生産管理システム及びスマート農機活用による作業の効率化	宮崎県 (西都市)	株式会社ジェイエイフーズみやざき	●	●					●			●
12	水田作 畑作	GPSトラクターの導入による作業の効率化	宮崎県 (児湯郡)	日本自給飼料生産普及センター株式会社		●								
13	畑作	スマート農業技術を活用したかんしよ栽培の作業省力化	宮崎県 (串間市)	株式会社くしまアオイファーム		●								●
14	畑作	トラクターの自動操舵システム導入による作業効率化の向上	鹿児島県 (熊毛郡)	株式会社大脇農園		●								
15	露地野菜	自動畑地かんがいシステムによる労働時間削減及び生産性向上	宮崎県 (都城市)	有限会社太陽ファーム		●		●						
16	露地野菜	スマート農機導入による従業員の負担軽減	宮崎県 (都城市)	有限会社ファームヤマト		●					●			●
17	施設園芸	土壌加温でイチゴの寒さ対策。収量2倍以上に。	福岡県 (久留米市)	株式会社フルトリエ					●					
18	施設園芸	環境制御システム等の導入により作業の省力化を実現	佐賀県 (佐賀市)	香月 亮太				●	●					
19	施設園芸	ITシステム導入によるスマート農業の実践	佐賀県 (伊万里市)	株式会社アースマインド伊万里					●					●
20	施設園芸	AI灌水施肥システムによる農作業の省力化	長崎県 (壱岐市)	松嶋農場					●					
21	施設園芸	統合環境制御システムの導入による生産性の向上	長崎県 (諫早市)	打越園芸 打越 剛隆					●					
22	施設園芸	統合環境制御システム等の導入による生産性の向上	長崎県 (諫早市)	株式会社深山農園					●					
23	施設園芸	環境制御システムを導入することで労力軽減と単収増加を実現	長崎県 (諫早市)	馬場 秀司					●					
24	施設園芸	環境制御システム等の導入による省力化及び収量増	長崎県 (雲仙市)	立石バラ園					●					

※水色の網掛けが今回追加分(計9事例)

No	営農分類	タイトル	県名 (市町村)	経営体名	技術分類									
					ほ場管理 システム	自動走行	可変施肥 収量アップ	水管理 システム	環境制御	鳥獣害 対策	ドローン	搾乳 システム	給餌 システム	その他
25	施設園芸	複合環境制御システム導入による生産性向上	長崎県 (雲仙市)	株式会社吉田花き農園					●					
26	施設園芸	IT企業との連携とデータを効果的に活用することで生産性の向上を实践	宮崎県 (西都市)	株式会社イニーファーム					●					
27	施設園芸	環境制御システム等の導入による収量増を実現	宮崎県 (宮崎市)	JAみやざき 宮崎中央地区本部 田野支店胡瓜部会					●					
28	施設園芸	ICTを活用した収穫予測と出荷管理で販売先確保と安定供給	宮崎県 (東臼杵郡)	門川町高精度トマト生産組合 7戸										●
29	施設園芸	施設内の環境を総合管理し安定した収量を確保	宮崎県 (東臼杵郡)	K.TFarm					●					
30	施設園芸	太陽光を活用した野菜工場での安定出荷	宮崎県 (東臼杵郡)	(株)ひむか野菜光房					●					●
31	施設園芸	環境制御システム等により省力化と収量増を実現	鹿児島県 (薩摩郡)	吉祥庵園芸					●					●
32	施設園芸	統合環境制御装置で収量増、労務管理のクラウド化で働き方改革	鹿児島県 (志布志市)	株式会社Farmers Villa Ume					●					●
33	果樹	クラウドを利用したマルドリ方式栽培による省力化と生産性の向上	長崎県 (西彼杵郡)	山口 直輝	●									●
34	果樹	草刈りロボットで省力化	熊本県 (球磨郡)	錦町スマート農業推進協議会		●								
35	畜産	自動エサ寄せロボット導入により酪農経営のゆとり改善	福岡県	酪農(家族経営)									●	
36	畜産	ICT技術の導入による省力化とリスクマネジメント	大分県 (竹田市)	株式会社古澤畜産										●
37	畜産	次世代閉鎖型牛舎・搾乳ロボット・哺乳ロボットの導入による生産性の向上	宮崎県 (児湯郡)	酪農経営 株式会社本部農場								●	●	●
38	畜産	分娩監視システムの活用による省力化	宮崎県 (西臼杵郡)	肉用牛繁殖 田邊 貴紀										●
39	畜産	搾乳ロボットの活用による労働時間の削減及び生産性の向上	宮崎県 (串間市)	酪農経営 城 薫								●		●
40	畜産	国内初！町(鹿児島県肝付町)が主導するスマート畜産推進の取組	鹿児島県 (肝属郡)	鹿児島県肝付町										●
41	畜産	自動給餌機及び牛の行動モニタリングシステム等による省力化	鹿児島県 (肝属郡)	村商株式会社 (新村畜産)									●	●
42	畜産	ミルメーカー導入による牛の健康管理と作業短縮	鹿児島県 (肝付町)	村商株式会社 (新村畜産)										●
43	畜産	哺育ロボット等ICT機器導入により生産性向上と規模拡大を実現	鹿児島県 (大島郡)	株式会社永吉ファーム										●
44	畜産	搾乳ロボットを導入し、ゆとりある酪農経営を实践	鹿児島県 (熊毛郡)	有限会社小脇牧場								●	●	●
45	畜産	ICTを活用しゆとりと高収益を目指す	鹿児島県 (肝属郡)	株式会社中野ファーム										●
46	畜産	AIとカメラによるスマート畜産によりロスコスト低減を実現	鹿児島県 (薩摩郡)	永江 陽平										●
47	その他 (茶)	摘採支援システムで摘採と加工が両輪となり高い収益性の維持を実現	鹿児島県 (志布志市)	鹿児島堀口製茶有限公司										●

※水色の網掛けが今回追加分(計9事例)

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県西都市
- 経営体名: 株式会社三共作業場
- 経営面積: 29.2ha(水稻)
- 従業員数: 役員3名、社員3名、アルバイト数名(繁忙期のみ)
- 生産方式革新実施計画(令和7年3月28日認定)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【自動操舵付きトラクター+ウイングハロー】 【水管理システム】



ヤンマー YT470



【レーザーレベラー】



【ザルビオ(xarvio)】

①地力マップ



地力マップを活用すれば、地力に合わせた元肥設計で効果的な土作りができる。

②生育マップ



生育マップを活用すれば、肥料コストを最適化しながら追肥が行える。

③導入の経緯

○海外ではスマート農業機械の普及が進んでいる一方で、日本のように農地面積が小さい地域に適した活用方法はまだ確立されていない。農地の持続的な利用を支えるために、効率的に農業を守りたいという思いから、スマート技術の導入を始めた。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 高性能スマート機械導入モデル経営体支援事業(県)
- 農業支援サービスの立上げ支援のうちスマート農業等導入支援

⑤導入してどうだったか(その1:導入前との比較、効果)

(1)畦畔を除去して区画を広げたことで、面積の大きくなった農地を自動操舵トラクターで耕せるようになり作業効率が向上した。



(2)自動操舵の導入により、作業済みと未作業の区別が難しい代掻き作業でも、重複や抜けを防ぎながら効率的に進めることができ、作業者の負担が大幅に軽減された。

(3)レーザーレベラーによる均平化で水深が均一に保たれ、水管理の精度が向上した。

(4)136枚のほ場に102台の水田ファームを設置したことでアプリの地図上で水位を一括把握できるようになり、従来2時間かかっていた水位確認の負担が大幅に軽減された。

⑥導入してどうだったか(その2:改善してほしい点、課題)

○補助事業でスマート農機の導入は進んだが、保管場所の確保が追いつかない。保管施設整備への補助制度を検討してほしい。

①経営体の概要

- 所在地:宮崎県えびの市
- 実施主体名:えびの産米特A産地化プロジェクト
- 栽培作物:水稲
- 構成員:JA稲作振興会生産者12名、JAみやざきえびの市地区本部(事務局)、えびの市、宮崎県

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 水田センサー:NTTドコモ(PaddyWatch)
(水稲向け水管理支援システム)



ドコモHPより



③導入の経緯

- 更なるえびの産米のブランド確立を目指し、栽培技術の見直しや、生育期間中の地域の気温や水田の水温データの見える化と、細やかな水管理を実施するため、平成29年にJAえびの市が水田センサー6台を導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- なし

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 圃場の気温や水温がスマートフォンでリアルタイムに確認・蓄積できるので、生産者に対し、根拠データを示せるようになり、収穫適期などの営農指導が的確に行えるようになった。
- 従来の試験項目に、深水管理と浅水管理の生育差による品質等への影響調査を行う試験栽培を加えることができた。

令和2年の水田センサーの活用例

【平成30年】適期(10月20日頃)の収穫済面積割合:約50%



地点ごとの登熟期の積算気温データ等を生産者に提示し、収穫適期を指導

【令和2年】適期(10月10日頃)の収穫済面積割合:約65%



収穫遅れによる茶米(粒表面の褐変)が減少し、品質と食味が向上!

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- コスト面(1台10万円)から、メンバー全員への導入が困難。
- データの分析・解析に要する作業時間の短縮。
- 給水栓の自動開閉装置など、他のICT技術との連携による相乗効果に期待したい。
- 消費者や卸業者などへの情報発信ツールとしても展開・活用できるよう、技術やデータを蓄積・分析し、更なる品質向上に努めていきたい。

宮崎県拠点(令和6年2月作成)

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県西臼杵郡高千穂町
- 実施主体名: 農事組合法人 高千穂西の風
- 栽培作物: 水稻(主食用米・WCS)
- 作付面積: 10ha
- ドローン防除受託面積: 21ha (オペレーター6名)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- ほ場水管理システム: WATARAS(ワタラス)
(株)クボタケミックス
※給水の自動・遠隔操作化。24時間、水位、水温、給水栓操作と開閉状況の確認が可能。

自動・遠隔操作
水管理システム

- リモコン式草刈機: スパイダー
福岡マシンテック(株)



リモコン式草刈機

- ドローン: MG1-RT
(株)クボタ

- ※農薬散布、種子
の直播、施肥等



ドローン

- アシストスーツ

- ・サポートジャケット UPR株式会社
- ・マッスルスーツ イノフィス



アシストスーツ

③導入の経緯

- 高齢化・後継者不足による耕作放棄地の増加と中山間地域の水田管理に係る重労働を解決する一手になることを期待。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- R2年度スマート農業加速化実証プロジェクト(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- ほ場水管理システム
→現場までの見回り時間、開閉操作時間の短縮。
- リモコン式草刈機
→急傾斜畦畔法面の除草作業の安全確保及び時間短縮。
- ドローン
→中山間地域の起伏ある狭いほ場では、ラジコンヘリよりも小回りが利き便利。
- アシストスーツ
→作業時の腰の負担が軽減。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- ほ場水管理システム
→取水口の目詰まり防止。
- リモコン式草刈機
→草丈1メートル以上の草刈りや急傾斜の畦畔等、様々な条件・場所でも利用可能なウインチレス機種の開発。
- ドローン
→導入コスト削減。
→バッテリーの大容量化と急速充電機能の開発。

①経営体の概要

- 所在地：鹿児島県南さつま市金峰町
- 経営体名：松木貴弘
- 栽培作物・作付面積：水稲早期米・50ha、WCS用稲・3ha、大麦・11ha
- 従業員数：5名(季節従業員含む)(令和7年9月現在)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- ロボット田植機
- 直進アシスト田植機
- 食味・収量センサー付きコンバイン
- ドローン
- KSAS(クボタ営農支援システム)



(すべて(株)クボタ製)

③導入の経緯

- 大規模化した、早期米の50haについて短期間で田植、代かき作業を行う必要があった。そこで労働時間の短縮及び労働負担軽減を目的に、令和3年にロボット田植機を導入した。
- ドローンについて、現時点は、除草剤の散布のみ利用している。(ドローンライセンス保有者3名)

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- ロボット田植機、直進アシスト田植機については自己資金。
- ドローンについては、県の補助事業を活用。

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 「ロボット田植機」を導入により、1日、1.5ha→2.5haの作業ができるようになった。
田植機1台に対し4名の作業員で運転・補助が必要だったが、導入後は田植え機2台に対し4名の作業員で2圃場同時に植え付けできるようになった。
自動運転機能により、作業時間の短縮、オペレーターの負担が軽減、苗入れ等の作業にオペレーターも手伝えるため作業員の負担も軽減されたことが大きい。
- 生産工程管理、ほ場管理はクボタの「KSAS」と作業日誌で管理。繁忙期においては、「KSAS」でのデータ管理することでデータ管理と事務作業の省力化にもつながった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- スマート農業機械は、導入コストが高価であり、費用対効果が課題。また、ドローンの点検が年1回あり負担。
- 通常の田植機と比較し、ロボット田植機は枕のターンの速度が遅い。また、水田の周りを1周人が乗車して植え付ける必要があり、完全自動化できるようメーカー担当者に要望している。
- スマート農業機械導入の効果を上げるため、畦畔を70本以上取り払い60aの区画への合筆、レーザーレベラーを使った均平作業など生産方式の見直しを進めている。



①経営体の概要

- 所在地：鹿児島県湧水町
- 経営体名：有限会社ハシモト
- 栽培作物・作付面積：水稲・22ha、飼料作物等・8ha
肉用牛繁殖：繁殖雌牛・100頭、子牛70頭
- 従業員数：6名(令和7年12月現在)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【農業用ドローン】

- DJI AGRICULTURE DRONE



【ロボットトラクター】

- ヤンマー YT4104R



【直進アシスト田植機】

③導入の経緯

- 過疎化や高齢化が進む中で、人手を確保することが課題であった。
- そこで、作業の効率化や省力化を図るために、令和2年に農業用ドローン、令和4年に直進アシスト田植機、令和7年にロボットトラクターを導入した。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- なし

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

【導入前との比較】

- 農業用ドローンを導入して、農薬と肥料散布に活用。作業時間の大幅な短縮を実現。
- 直進アシスト田植機を導入して、正確な作業と作業時間の短縮を実現。
- ロボットトラクターを導入して、オペレーターの作業疲労を大幅に軽減、また、作業の効率化を実現。

【効果】

- これらにより、作業時間の短縮や作業従事者の疲労軽減が図られ、人手不足の解消と作付面積の拡大に繋がった。
- スマート農業機械の導入には、初期投資に高額のコストがかかるが、一方で従業員抑制による人件費の削減、疲労減などに繋がり、費用対効果は高いと感じている。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 圃場が点在し、個々の圃場面積が狭いため、スマート農業機械の能力を最大限に活かせない。農地の集約化が課題である。
- 高齢なオペレーターにとっては、操作の習得に戸惑いを感じるのではないかな。
- 補助事業の申請手続きの簡素化、迅速化を要望。
- ロボットトラクターは、農業共済組合の農機具共済に加入できないので、事故や故障等に対する補償に不安感がある。(一部の県では加入可)

① 経営体の概要

- 所在地: 大分県国東市安岐町
- 経営体名: 株式会社松原ファーム
- 経営面積: 50ha
 水稻35ha 麦40ha 大豆5ha
 サツマイモ0.3ha
- 従業員数: 8名(うちオペレーター5名)



② 導入技術・システム (商品名・サービス名と企業名)

- 営農支援システム: KSAS (株)クボタスマートアグリシステム
- 栽培管理支援システム: xarvio(ザルビオ)フィールドマネージャー
- 農薬散布ドローン: (株)クボタT20K、T10
- 直進アシスト可変施肥田植機: (株)クボタNW8S
- 収量コンバイン: (株)ヤンマーYH471A
- 自動操舵トラクタ: (株)クボタSL600 CHCナビ後付け

③ 導入の経緯

- 作業の効率化、省力化を図ることが目的。
- スマート農機の有用性は認識するが高価であるため、宝の持ち腐れにならないよう、導入前に運用面を充分検討した。

④ 導入に当たり活用した事例・事業名(国、県)

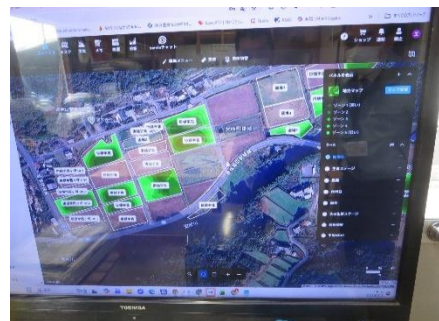
- 農地利用効率化等支援交付金(国)

⑤ 導入してどうだったか(導入前との比較、効果)

- 「直進アシスト可変施肥田植機」と「KSAS」を連動させ、事前に植栽密度、施肥量等をセッティングすることで、現地で扱うことなく稼働出来、効率的な作業を行うことができた。
- 「KSAS」と「xarvio」を併用することで、圃場ごとの作付状況、生育状況を容易に判断できるようになり、水管理等の現地圃場見回り頻度を大幅に減少させるなど、省力化を実現することができた。
- 自動操舵トラクタは作業軌跡が分かりづらい代掻き作業等での重複やかぶせ幅の削減等に有効であり、作業の効率化に寄与している。

⑥ 導入してどうだったか(改善してほしい点、課題)

- 「直進アシスト可変施肥田植機」のモデルチェンジによるシステムアップデートを旧機種にも適用できるように改良してほしい。
- 「xarvio」は、料金が10aあたり1500円程度だが、インターフェイスが重く、動作が遅いのが、難点である。



栽培管理支援システム(xarvio)



農薬散布ドローン

①目的

〇IT技術を活用しながら労働力を最適化し、生産性向上を目指すスマート農業推進の一環として、高精度な位置情報を活用し、農業機械の自動操舵による省力化を図るため。

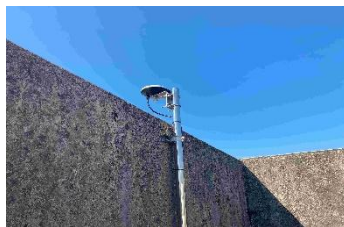
②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【RTKソリューション】

高精度・高機能GNSS-RTKシステム
(西部電気工業株式会社 施工)

〇RTK基準局(Ntrip Server)
(半径10km、筑前町全域をカバー)

〇中継サーバ(Ntrip Caster)



筑前町役場に設置された
RTK基準局

※RTK移動局はすべて各農家の負担

③導入の経緯

〇少子高齢化により農業従事者が減少し、担い手不足が深刻化していた。

〇行政よりも先に数名の若手農家が個々にRTK移動局を設置するなどして活用していた。

〇その若手農家の「筑前町が主体となってRTK基準局を導入して欲しい」との要望と認識が一致し、2024年夏頃から本格的にRTK基準局の導入を検討することにした。

〇複数のベンダーを比較検討した結果、西部電気工業を選定。

〇2025年4月、本稼働開始。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

〇町単独事業により、システム全体を導入(農家の利用料無料)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

〇GPSに比べ誤差が小さく、RTK基準局の導入により、誤差5cm以下の高精度な自動操舵が可能となった。

〇農家の作業負担が軽減され、新規就農者でも機械操作が容易になった。

〇無料で利用できる環境が整い、町内農家の参加意欲と評価が高まっている。

〇スマート農業の普及により、地域の持続可能な農業モデル構築が進んでいる。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

〇草刈りやため池の監視、防災、ドローン配送など、農業以外の分野でもRTK技術の活用が期待されている。

GNSS-RTK システム構成



①経営体の概要

- 所在地: 熊本県上益城郡嘉島町下六嘉3726
- 経営体名: 株式会社 藤瀬農園
- 栽培作物・作付面積
施設園芸(ミニトマト): 1.1ha(うち低コスト耐候性養液栽培ハウス70a)
土地利用型: 主食用水稻10ha、小麦27ha、大豆15ha
- 従業員数: 家族4名、(施設園芸及び土地利用型の専属担当者を配置)、フルタイム4名、パートタイム15名及び実習生(インドネシア)2名計25名、R7.4から実習生(インドネシア)を2名追加予定

②導入技術・システム (商品名・サービス名と企業名)

- 統合環境制御システム(誠和:プロファインダーNext80)
- 二酸化炭素発生装置(誠和:真呼吸)
- 自動操舵農機(ヤンマー:オートトラクター)
- 自動操舵農機(ヤンマー:直進アシスト機能付き田植え機)

③導入の経緯

- 統合環境制御システム
低コスト耐候性ハウス内に設置導入して、ハウス内環境を植物にとって最適な環境に整えることで、安定生産と生産量の拡大を目的に導入。
- 自動操舵トラクター・直進アシスト機能付き田植え機
繁忙期は1日の作業時間が長くオペレーターの負担が大きいため、疲労蓄積、集中力の低下、作業クオリティーの低下、事故発生等懸念があったため導入。

④導入に当たり活用した補助事業等 (国、県)

- 低コスト耐候性ハウス一式: 令和2年度強い農業・担い手づくり総合支援交付金(国)
- 自動操舵トラクター・直進アシスト機能付き田植え機: 令和2年度担い手確保・経営強化支援事業(国)

⑤導入してどうだったか (その1 導入前との比較、効果)

- 統合環境制御システム
これまで、勘や経験に頼っていた栽培から、データに基づいてハウス内環境を自動制御することにより、高品質なミニトマトの安定生産を実現。作業者の労力も軽減。
- 自動操舵トラクター・直進アシスト機能付き田植え機
自動操舵機能を活用することで、オペレーターの労働負荷軽減や作業クオリティーも安定。大豆や麦の播種条間隔も安定するため、播種以降の作業も効率的に行える。

⑥導入してどうだったか (その2 改善してほしい点、課題)

- 統合環境制御システム
制御システムは自動、手動が選択できるが操作はすべてパソコンで管理しているため、非常時(停電)は蓄電設備がないと機能不全となることが心配。
- 自動操舵農機
自動操舵の精度は高いが、通信料は年間契約。使用時期が限られているため月割の通信料を設定してほしい。



統合環境制御システム導入ハウス



自動操舵トラクター

①経営体の概要

- 所在地:大分県宇佐市
- 経営体名:株式会社 K. 945 (酒井 勝洋)
- 栽培作物:水稻、大麦、枝豆、大麦若葉
- 作付面積:約26ha
- 従業員数:家族4名(経営者夫妻、両親) 臨時5名

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- ほ場管理システム(アグリノート:ウォーターセル(株))



- 自動操舵補助システム
(CHCNAV:CHCナビゲーション社(中国))
- 直進アシスト田植機(さなえNP80D-Z: 中セキ)
- アグリロボコンバイン(WRH1200A-2: クボタ)

③導入の経緯

- 農地の大規模化に伴い、「農作業を楽にする」ために新たな農業技術・機械の導入は必須。
- インターネットや全国の若手農業者とSNSにより情報収集。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 令和4年高生産性水田農業強化対策事業(県)(アグリロボコンバイン)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- ほ場管理システム
 - ・ ほ場の場所、面積、栽培品目等を登録することで、ほ場管理が楽になった。
 - ・ ほ場毎に作業記録を入力し進捗状況を見える化でき、計画的な作業ができるようになった。
 - ・ 使用料は1,000円/月とリーズナブル。
- 自動操舵補助システム
 - ・ 旧機種と比較すると価格も安価であり、また動きも良くなった。
- アグリロボコンバイン
 - ・ 自動で刈取り作業を行えるので作業負担が大きく軽減した。また、ある程度狭いほ場でも機械が入れば対応でき、使い勝手が良い。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- ほ場管理システム
 - ・ ほ場データなどの初期登録は、ほ場が多いほど手間がかかる。
また、パソコンで登録する必要があるが、スマートフォンでも簡単に入力できるよう改善を希望。
- アグリロボコンバイン
 - ・ システムアプリを後継の新型機と同じものに更新ができれば更に使い勝手が良くなると思料。

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県えびの市
- 実施主体名: 株式会社ファームヤマザキ
- 栽培作物: 水稻(主食用米・露地野菜)
- 作付面積: 水稻6ha、キャベツ5ha、にんじん4ha、ブロッコリー1.2ha、かんしょ1.5ha
- 従業員数: 社員5名(役員2名、外国人労働者3名)
- 認定等: 生産方式革新実施計画(令和7年1月31日認定) みどり認定、土壤医(1級)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【自動操舵トラクター(井関)】



※トプコン自動操舵システムを採用

【農業用ドローン(DJI)】



※AGRAS T30

【ロボット田植え機(井関)】



※8条植(有人監視型)

👉 リモコン一つで
ほぼ操作可能

③導入の経緯

- 高齢化・後継者不足による中山間地域の農地保全と労働力確保と次の担い手世代への農業継承。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 特になし

⑤導入してどうだったか(その1:導入前との比較、効果)

- 新たな生産方式(生産方式革新実施計画の認定要件)
→農地の集約と畦畔除去
- 自動操舵トラクター
→作業時間の短縮、作業効率の向上
- ロボット田植え機
→作業時間の短縮、作業効率の向上
- ドローン
→薬剤散布の作業効率が向上(7割減)

⑥導入してどうだったか(その2:改善してほしい点、課題)

- スマート農業機械を導入しても、ほ場の区画が10a前後と小さいため、機械の搬入や移動に時間を要し、性能を十分に発揮できていない。
 - ほ場が点在しており、移動に時間がかかり、作業効率が低下している。
- 今後は、補助事業等を活用し、農地の集約や畦畔除去などの基盤整備を積極的に進めていきたい。

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県西都市
- 経営体名: 株式会社ジェイエフーズみやざき
- 契約農家: 約50戸、約110ha (ほうれん草)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- クラウド型生産管理システム・・・自社独自開発
- ・ほ場位置、面積、生育情報等のデータを一括管理し、効率的な業務を実現。
- ・フィールドコーディネーター(※)による定期巡回により生育状況、収穫時期、収穫量を予測。
- ※フィールドコーディネーターとは、契約農家ほ場を巡回し、栽培工程を把握・管理するスタッフ。

- ロボットトラクター(SL60)
- ・隣接ほ場や広いほ場での平行作業による効率化。
- 直進アシストトラクター(NB21)
- ・未経験者でも一定レベルでの作業が可能になった。

- ドローン(MG-1、MAVIC2)
- ・肥料散布や作物の生育状況の確認に活用。



ロボットトラクター

施肥・防除で使用する
ドローン自動収穫機(後部コンテナ
押さえ部分の機械化)

③導入の経緯

- 生産から加工、販売までの工程を一元管理し、全体の効率化につなげるためのインテグレーションモデルの実現。
- ロボットトラクターやドローンの活用による作業時間の短縮や生産管理システムによるほ場管理、収量の向上。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

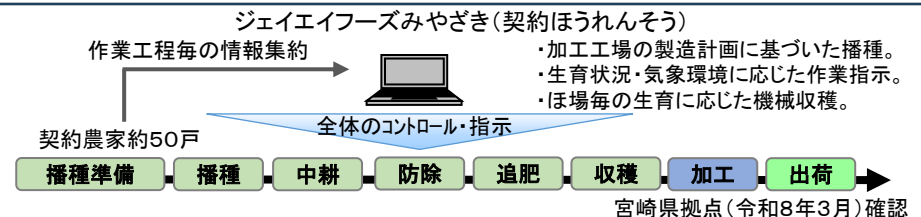
- 生産管理システム: H22・23年度サプライチェーン省資源化連携促進事業。
- スマート機器: R元年度スマート農業加速化実証プロジェクト。

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 導入により契約農家の作付ほ場の位置や面積、生育状況を正確に把握することが可能となったことから、収穫時期や生産量の予測、工場稼働計画やほ場の品種別作付計画がより詳細に立てられるようになった。
- ロボットトラクターやドローン、収穫機械等の活用により作業時間の短縮につながった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- ドローンを活用した防除作業を行うため、登録農薬を増やして欲しい。
- スマート機器(ロボットトラクター、直進アシストトラクター)の動作環境が不安定な場所がある。



①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県川南町
- 経営体名: 日本自給飼料生産普及センター株式会社
- 作付面積: 飼料用とうもろこし120ha、牧草83ha(イタリアン+エン麦+飼料用大豆)、堆肥散布200ha
- その他: 農業機械を他社と共同開発、機械の自社整備

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- GPSトラクター(2台)
- JOHN DEERE 150ps、JOHN DEERE 115ps



ガイダンスシステム自動操舵



専用ハンドル(トリンプル)

③導入の経緯

- 農地を集約し、大規模ほ場(最大8ha)で作物を栽培する上で作業の効率化等を目的にGPSトラクターを導入。
- 作付面積の拡大の為、精密播種及び化成肥料の精密散布、堆肥散布による経費の削減。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

○なし

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 作業人員及び労働時間の削減
- オペレーターの疲労軽減
- 耕起の直線化により無駄がなく作業の効率化アップ

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- それぞれの機械や部品が高価になる。
- コンピューター系の故障の場合、修理に日数がかかる。
- 全台数(所有トラクター5台)にGPSを導入したいが費用がかかる。
- 狭いほ場では使用できないため土地の集約が必要。
- 自動操舵により精密播種、精密肥料散布が出来るようになり、作業効率が上がった。

ガイダンスシステム自動操舵による
コーン、大豆の播種

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県串間市
- 実施主体名: 株式会社くしまアオイファーム
- 栽培作物: かんしょ
- 作付面積: 32ha
- 従業員数: 常時雇用110名（役員3名）
- 認定等: 生産方式革新実施計画の認定（令和7年11月27日）

②導入技術・システム（商品名・サービス名と企業名）



※(株)FiledWorksの小型薬剤散布ロボット ウネマキ



畝間に除草剤を散布しながら直進するウネマキ。（ラジコン操作）



自動操舵システムを用いたトラクターで畝立作業



まっすぐな畝立（熟練度に関係なく高精度な作業が可能）

③導入の経緯

○かんしょ栽培の畝間除草は人力に依存してきたが、近年の労働力不足により従来の作業体系の維持が困難となっている。このため、畝間小型薬剤散布ロボットを導入し、省力化による持続可能な営農体制の構築を図りたい。

④導入に当たり活用した補助事業等（国、県）

- スマート農業等生産団地創出支援事業（県）
- スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート緊急対策事業（国）

⑤導入してどうだったか（その1:導入前との比較、効果）

- 「楽に、速く、確実に」背負わない動噴による除草剤の散布作業が可能。
- 10a当たり60分の作業時間削減。
- 余剰労力により、作付面積増、土づくりや防除等の管理作業に振向けが可能。
- 従来の人力による動力噴霧機作業と比べ、除草剤の散布量を安定して調整できるため、使用量の削減が可能。
- 低い位置での薬剤吐出及び吐出口へのカバー装着により、薬剤ドリフトの発生リスクが低減。

⑥導入してどうだったか（その2:改善してほしい点、課題）

- バッテリー駆動時間が十分とは言えない。
- 畝間の凹凸（おうとつ）や土壌条件の影響を受けやすく、畝間走行時に、車輪の空転やふらつきの発生がある。

①経営体の概要

- 所在地：鹿児島県南種子町
- 経営体名：(株)大脇農園
- 栽培作物・作付面積：さとうきび40ha、甘しょ5ha、ばれいしょ4ha
- 従業員数：9名(令和7年12月現在)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【トラクター自動操舵】
(株)CHC NAVIGATION



自動操舵タッチパネル



運転席にあるタッチパネル

③導入の経緯

- 経営の規模拡大を考えた場合、どうしても労働力不足が考えられることから、自動操舵システムにより労働負荷の大幅な軽減や作業品質の均一化を図りたいと考え導入した。
- 地域の農地を集約し圃場の大規化を図り、作業効率化の大幅な向上を目的に、自動操舵システムを導入した。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- なし

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 作業人員や労働時間の削減に繋がった。
- 機械オペレータの経験値に左右されず、作業経験の少ない者でも作業精度を高く維持できるようになった。
- 前回利用した作付面積等のデータを蓄積できるため、2回目以降は、そのデータを活用できる。
- 作業効率化による余剰労力が、作業受託面積の増加に繋がった。



さとうきびの植付装置

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 狭い圃場では、トラクターでの使用が困難であるため、農地の集約等を考えなければならない。
- 自動操舵システムで必要な位置情報の取得補正のための通信費が高額になっている。
- このようなシステムが地域にもっと普及していくことを望んでいる。



さとうきび畑

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県都城市高木町
- 経営体名: 有限会社太陽ファーム
- 作付面積・栽培作物: 直営農場40ha(キャベツ20ha、ニンニク3ha、かんしょ15ha、ショウガ30a、小松菜2ha)
- 従業員数: 社員54名

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 自動畑地かんがいシステム((株)アグリスマート)



ゲートウェイ装置



センサー・電磁弁制御装置



電磁弁



ほ場散水パイプ

可搬型センサー・電磁弁制御装置(試作)

- 農地均平化作業機「GPSレベラー」
(ヤンマーアグリジャパン(株))



GPSレベラー



ほ場面の傾斜・均平化作業

③導入の経緯

- 天候により水の供給や排水が不安定な露地野菜(加工・業務用)の安定生産のため、自動畑地かんがいシステムとGPSレベラーを導入し、土壤水分の適正管理を図った。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- R2年度スマート農業加速化実証プロジェクト(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

＜GPSレベラー(キャベツ、かんしょ、ニンニク)＞

- 均平整地及び大区画化集約
- ・停滞水の解消により反収が20%以上向上。
- ・機械稼働率の向上により作業時間が20%削減。
- ・除草作業が70%ほど削減。

＜自動畑地かんがいシステム＞

- キャベツの活着時、ニンニクの肥大期に活用。
- ・かん水の開閉にかかる時間が大幅に削減された。



均平化、大区画化された集約ほ場

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 制御装置等が重すぎるため、一人で軽トラックに積載し、ほ場間を移動するには難がある。実用化に向け、更なる小型化や移設の簡易化が必要であり、現在、メーカーと共同で開発中。

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県都城市
- 経営体名: 有限会社ファームヤマト
- 作付面積: だいこん65ha、かんしょ24ha、ごぼう15ha、にんじん8ha、水稲5ha
- 受託作業: ゴボウ収穫・選別、大根の播種作業、土壌消毒作業等
- 加工事業: 冷凍大根おろし(液体凍結)、冷凍焼き芋
- 従業員数: 役員3名、社員22名、パート4名
特定技能・技能実習17名(ベトナム、インドネシア)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

YANMAR だいこん収穫機 HD1250



収穫作業の高能率化・省力化

DJI Agras T25



農薬を効率的に散布

ニコン・トリンブル Trimble GFX-750

初心者でも操作が簡単なトラクター
自動操舵システム

③導入の経緯

○作付規模を拡大し作業量が増加する中で、従業員の負担軽減と雇用の継続を図るために導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- OR元年度産地パワーアップ事業(国)
- OR元年度都城市スマート農業モデル実証事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- だいこん収穫機
 - ・農作業の効率化と省力化が図られ負担が軽減。
 - ・適期の収穫が可能。
- ドローン
 - ・農薬散布の作業負担が大幅に軽減、散布のムラを解消し品質・収量が安定。
- トラクター自動操舵システム
 - ・経験の浅いオペレーターでも熟練者レベルの作業が可能。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- だいこん収穫機
 - ・ごぼうやにんじんと汎用性があればよい。
 - ・茎葉カット機能の精度向上。(ほ場の凸凹・生育不揃い。)
- ドローン
 - ・機械導入、免許取得の費用負担が大きい。
- トラクター自動操舵システム
 - ・トラクターが変わると付け替えを要するため、複数台導入しない限り汎用性が低い。
- 共通
 - ・狭いほ場では効率が悪い、農地の集約が必要。
 - ・更新時や消耗品の費用が割高。

①経営体の概要

- 所在地:福岡県久留米市
- 経営体名:株式会社フルトリエ
- 栽培作物・作付面積:いちご・75a
- 従業員数:正社員9名、パート11名(令和8年3月現在)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【局所土壌ヒーターシステム】

省エネ大賞 審査委員会特別賞受賞 商品

- 制御コントローラー
- 中継BOX
- 保温チューブ
(株式会社アイナックシステム製)
- アビルヒーター
(泉州電業株式会社製)



いちごの株元に敷設した保温チューブ

③導入の経緯

○いちごは、気温が5℃以下になると生育が止まり(休眠)、花が咲かなくなる。(主に2～3月に発生)
この対策として、従来、重油暖房が行われている。当社では、重油暖房をしてもなお、いちごが休眠し、開花結実が遅延し、これによるいちご狩りの予約キャンセルが大きな問題であった。
○こうした折、アイナックシステム社が局所土壌ヒーターシステムの開発に当たり、2023年11月～2024年3月に当社で実証実験を実施し、引き続き同システムを活用した。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 久留米市ものづくり支援事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

○久留米市ものづくり支援事業の実証実験の概要

- ・実証期間:2023年11月～2024年3月
- ・試験区:重油暖房の設定温度5℃
- ・対象区:重油暖房の設定温度10℃
- ・試験区、対象区、各10a

○実証実験の結果

- ・ランニングコスト(重油代+電気代)が約43万円の削減
(重油代約100万円→約50万円、電気代約4万円→約11万円)
- ・1株当たり収量が2倍以上増加(11個→27個)
- ・CO2 排出量が52.5% 削減(約24t→約11t)

○独自開発のコントローラーによって、土壌を直接加温し、土壌温度を維持するシステム(特許出願中)を実装。

○この実証実験で、いちごの休眠を防止することを確認したので、その後、いちごハウスを新設するときは同システムを最初から設置している。既存ハウスにも設置を、75aの約8割に設置。現在、精密な記録データはないが、同システム設置の効果は全収穫期間(12月～6月)の収穫量約3割増と見込んでいる。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

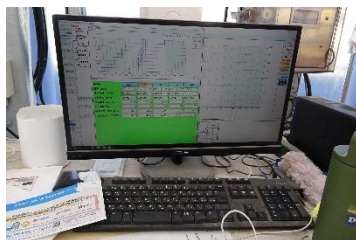
○効果をととても実感しているが、冬季の土壌温度実績は11～18℃。もう少し地温を上げられるようにしてもらえると嬉しい。

①経営体の概要

- 所在地:佐賀県佐賀市
- 経営体名:香月亮太
- 栽培作物・作付面積:きゅうり・22a
- 従業員数:3名(令和7年1月現在)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 環境制御システム AERO BEAT
イノチオアグリ(株)
- 自動灌水制御システム AQUA BEAT Ex
イノチオアグリ(株)
- 光合成促進機 グロウエア
ネポン(株)
- その他
(ミスト、日射比例灌水、
点滴チューブ、55%遮光カーテン)



AERO BEAT 管理モニター

③導入の経緯

○施設きゅうり栽培に取り組んできた父のもと、新規就農。父とは別経営とし、従業員の労務環境や作業効率が重要と考え、従業員の健康や安全を確保しながら、省力化やデータを活用した栽培に取り組むために令和3年に環境制御システム等を導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 令和2年度補正 産地生産基盤パワーアップ事業(国)
低コスト耐候性ハウス、環境制御システム、
自動灌水制御システム

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 環境制御システム等の導入により
 - ・複数のハウスの天窓やカーテン、ミストなどすべての機器を1台のパソコンで操作・管理が可能となり、作業効率や費用対効果が向上した。
 - ・スマートフォンで遠隔操作が行なえることから、天候の急変など緊急時の速やかな対応が可能となった。
- 光合成促進機の導入による、炭酸ガスの供給により、光合成が促進され、実の肥大を促す効果をもたらし、増収や品質の向上が図られた。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 光合成促進機の燃油などの価格高騰による、ランニングコストの上昇抑制が課題。



AQUA BEAT Ex



グロウエア

①経営体の概要

- 所在地: 佐賀県伊万里市
- 経営体名: 株式会社アースマインド伊万里
- 栽培作物・作付面積: パプリカ・50a
(2023年J-GAP取得)
- 従業員数: 役員3名、パート6名(令和8年4月現在)



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【複合環境制御装置】

- 換気設備
- 遮光兼保湿カーテン設備
- 養液栽培システム
- 排液再利用銀イオン殺菌設備
- 温湯暖房設備
- 複合環境制御設備
- 高圧受電設備
- 雨水集水設備
- 選果設備
- ボイラー排気利用CO2施肥設備
- 防除設備

トミタテクノロジー株式会社

③導入の経緯

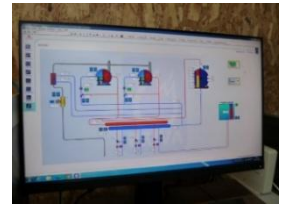
○地域の農家が後継者不足に悩んでいるという話を聞く機会があり、何らかのかたちで地域貢献ができないだろうかと考えていたところ、「オランダ式のパプリカ工場」に出会った。ITを活用した農業の実践により、従来のマイナスイメージを払拭した農業の姿を見せることができると考えており、この農法が普及すれば、後継者問題を解決できるのではないかと思い導入を決意。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 平成25年度強い農業づくり交付金(国)

⑤導入してどうだったか(その1 効果)

○IT技術を活用した栽培データに基づく生育に適した環境下での栽培により、病害の発生も少なく、導入当初から安定した品質の良いパプリカを安定して生産、供給することができている。



ハウス内の環境制御モニター

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

○将来的には輸出も考えているが、システム設定の知識不足や夏の猛暑で育苗が思うようにいかず、収量目標の18ト/10aを達成できていない。
定植時期や培土を変更する等、試行錯誤をしつつ単収増と品質の更なる向上を図っていきたい。



ハウス内での栽培状況



パプリカ(赤・黄)

①経営体の概要

- 所在地:長崎県壱岐市
- 経営体名:蒼花 松嶋農場
- 栽培作物:いちご(品種:恋みのり・ゆめのか)
- 作付面積:10a(高設栽培)
- 従業員数:5名(令和7年7月現在)



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- AI灌水施肥システム「ゼロアグリ」
- (株)ルートレック・ネットワークス

環境情報

クラウド

スマホ・制御機器



天気予報

予報日射量



ゼロアグリクラウド

リモートで
確認・調整・指示制御計画の
作成・指示

スマホ



各種センサー

温度、湿度、
CO2濃度土壌水分量、EC、
地温、灌水量、
排液率ゼロアグリ
(制御盤)

制御実行



圃場

③導入の経緯

- 灌水管理については、感覚的な指導が多かったことから、不安を抱えていたところ、管理が明確に数値化できる当該システムを先進農家が導入していたことから、管理状況や効果(灌水等作業の省力化)を確認して導入した。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 産地生産基盤パワーアップ事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 培土の水分量を一定に保つためには、1日に5~6回灌水することが望ましいが、システムを使用しない場合では、朝の1回の灌水が精いっぱいであったため、自動灌水による作業省力化の効果は大きい。



- 細かい栽培管理を行うためには、水分量や日射量等を把握する必要があるため、圃場に常駐する必要があるが、スマホ(リモート)によるモニタリングが可能であることから、他の作業に時間が使えるようになった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- システム自体はクラウドに日々アップデートされており、必要な機能も実装されているため、特に改善等の要望は無い。

- システムを導入するに当たっては、費用対効果の十分な検証も必要ではあるが、当たり前な話、基本的な肥培管理を疎かにしない(システム任せにしない)ことが肝要。

①経営体の概要

- 所在地：長崎県諫早市
- 経営体名：打越園芸 打越剛隆
- 栽培作物：輪きく(23a)、マム(77a)
採種メロン(10a)、スナップエンドウ(約15a)
(メロン、エンドウは統合環境制御未導入)
- 従業員数：家族4人、非常勤3人、
実習生(ベトナム)2人(インドネシア)2人



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 統合環境制御盤(MC-6000)
- 炭酸ガス発生機(CG-854T2)
- ヒートポンプ(NGP104T-G)
- (※ 上記すべてネボン(株)製)
- 自動換気装置
- 二重カーテン
- 自動灌水
- 自動噴霧装置 (なからっぽ:(株)ブルーウィング)
- 環境モニタリング装置 (ウルトラエース:渡辺パイプ(株))

③導入の経緯

- データを見える化し、生産性向上を図るため、統合環境制御を導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 次世代施設園芸拡大支援事業(国)
- 耐候性ハウスは、平成16年度に「経営構造対策事業」、平成24年に「強い農業づくり交付金」を活用。

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 積算温度を把握することで開花時期が予測できるようになり、出荷するための管理計画が立てやすくなった。
- 密植しても2L(最上位等級)率がアップするとともに、需要に応じた草丈に栽培できるようになった。
- 適切なタイミングで防除できるようになり、病害虫の被害が減少した。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 若い農家に普及するためにも、もう少し安価にしてもらいたい。
- 同じ環境制御の機械を導入している農家同士での情報交換や交流により、一層の改善につながることを期待する。



ハウス内の輪きく栽培



炭酸ガス発生機



自動噴霧装置による細霧

①経営体の概要

- 所在地：長崎県諫早市
- 経営体名：株式会社深山農園
- 栽培作物：いちご(品種ゆめのか、高設栽培)222a、にがうり 16a
- 従業員数：家族4人、パート22人、実習生8人



②導入技術・システム (商品名・サービス名と企業名)

- 統合環境制御システム (ハウスナビアドバンス)：(株)ニッポー
- 光合成促進機(ZOさん)：フルタ電気(株)
- 自動換気装置(愛菜くん)：日農工業(株)
- 二重カーテン：東都工業(株)
- 自動灌水装置(灌水NAVI)：(株)ニッポー
- ヒートポンプ：ダイキン工業(株)
- 農産物用選別機：(株)横崎製作所



③導入の経緯

- 規模拡大を図り労働生産性を高めるために、環境制御システムを導入。

自動換気装置



光合成促進機



④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 次世代施設園芸拡大支援事業(国)
- 産地生産基盤パワーアップ事業(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 目に見えない温度や湿度・炭酸ガス濃度がデータとして見える化され、理想的な値へ遠隔操作で設定ができるほか、自動管理も行うことから、労力、精神面で非常に楽になった。
- 湿度等の調整ができたことにより、「灰色かび病」の発生が抑えられ、消毒の回数が減り、農薬の使用量が減った。
- 単収のアップ(概ね1割程度)。
- 選果に費やされていた時間や労力が軽減された。



⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 環境制御システムは高価であり、小規模なハウスへの導入は費用対効果上向いていない。もう少し安価にしてほしい。
- 部品の取り換え等、機械の維持管理に必要な修繕が、各機械2、3年ごとに必要であり、コストや労力がかかる。
- 更に効果的に活用するために、いちごの栽培に適合した環境制御の設定について、長崎県が開催する勉強会等に参加する等、自己研さんしている。

①経営体の概要

- 所在地：長崎県諫早市
- 経営体名：馬場秀司
- 栽培作物：キュウリ（47a）
- 従業員数：家族2名、常勤1名、非常勤3名

②導入技術・システム（商品名・サービス名と企業名）

- 統合環境制御盤（株）ニッポー：ハウスナビアドバンス
- 光合成促進機 フルタ電気（株）
- 循環扇装置 フルタ電気（株）
- 外張りビニール MKVアドバンス（株）
- 内張フィルム MKVアドバンス（株）
- ドライミスト（株）ノーユー社

③導入の経緯

- 労力軽減を図る中で収穫量の増大や病虫害の減少を図る必要があり、ハウスナビアドバンスを含めた環境装置を導入。

④導入に当たり活用した補助事業等（国、県）

- 次世代施設園芸拡大支援事業（国）
- 最新の耐候性ハウスは、平成24年に「強い農業づくり交付金」を活用。

⑤導入してどうだったか（その1 導入前との比較、効果）

- 反収が増加（概ね3割程度）するとともに、キュウリのサイズも大型化。
- 温度・湿度の管理により、病気の発生が減少し、消毒回数も減少。
- ハウス内の環境を全て自動で制御できるので、導入前より労働力の大幅な減少。

⑥導入してどうだったか（その2 改善してほしい点、課題）

- 若い農家に普及するためにも、もう少し安価にしてもらいたい。
- 環境制御の勉強会にも参加しているが、マニュアルがトマトの栽培に関するものなので、キュウリの栽培に導入している者との情報交換、及び指導が受けられるようになればいい。



ビニールハウス全景



内張フィルム設置状況

①経営体の概要

- 所在地：長崎県雲仙市
- 経営体名：立石バラ園
- 栽培作物：バラ(70a)、玉ねぎ・かぼちゃ・にんにく(10a)
- 従業員数：家族3人、常勤1人、実習生(インドネシア)2人

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 統合環境制御盤 (株)ニッポー：ハウスナビアドバンス
- 炭酸ガス局所施用 フルタ電気(株)
- 自動換気 フルタ電気(株)
- ヒートポンプ ダイキン工業(株)
- 自動灌水装置(日射比例灌水)*
- ドライミスト*
- パット&ファン*

*は独自制作

③導入の経緯

- 様々なデータが見える化し、ハウス内の環境とりわけ温度及び炭酸ガス濃度を適切に管理するためにハウスナビアドバンスを含めた環境制御装置を導入。



各種センサー等



④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 次世代施設園芸拡大支援事業(国)



⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 導入して間もないがその効果は非常に大きく具体的な結果もあらわれている。例えば収穫本数が増加(概ね3%増)し、L以上の上位階級率も増加(概ね7%増)。
- ハウス内環境を自動で制御できるので導入前と比べ換気等に係る労力が減少。
- 今後より効果的な栽培管理を行うため、日射データを蓄積し、温度、湿度といった基本情報以外の様々なデータを活用して、今後の栽培管理に応用していく可能性も模索。



統合環境制御盤で管理

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 炭酸ガス局所施用は効果があるが灯油を使用しているためランニングコストの負担が大きい。

①経営体の概要

- 所在地:長崎県雲仙市
- 経営体名:(株)吉田花き農園
- 栽培作物:きく(103a)
- 従業員数:家族5人、常勤1人、
実習生4人(カンボジア1人、ミャンマー3人)



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- CO2発生装置(ダイキン)
(ブローア、株間配管によるCO2の局所施用)
- ヒートポンプ、自動かん水装置(日射比例)、自動換気装置、
自動被覆装置
- UVB照射システム(パナソニック(株))

③導入の経緯

- これまで「勘」に頼っていた栽培管理をデータで見える化し、
単収・品質の向上、労力軽減を図るために、環境制御装置
を導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 次世代施設園芸拡大支援事業(国)
- 産地パワーアップ事業(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- CO2の局所施用により、単収・2L率が向上
し、出荷本数を増やすことができた。
- ハウス内の環境を整えることで「きく」が健全な状態になり、
病害が少なくなり、経費の節減に繋がっている。
また、作業の自動化により、労力の軽減が図られている。
- UVB照射システムの使用により、ハダニ等の増殖が抑制さ
れ、使用農薬を減らすことができ、防除作業を省力化できた。
- 仲間と勉強会を開催することにより、お互いの技術向上を
図るとともに、環境モニタリング情報を共有してトラブル防
止にも役立っている。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 導入コストを取り戻すために、収量アップと品質の向上、コ
スト以上に売り上げを伸ばすという考えで、日射比例かん
水装置も導入予定。
- 規模拡大のために土地は確保したものの、ハウスの資材
などが高騰しており、新設については様子見の状態。
- 猛暑の影響により、農機類が傷みやすくなった。今後も継
続して使用するために、維持費や機体の更新費用を支援
してほしい。



ヒートポンプ



UVB照射システム

①経営体の概要

- 所在地:宮崎県西都市
- 経営体名:株式会社イニーファーム(令和6年8月に法人化)
- 栽培作物:ピーマン(J-GAP取得)
- 作付面積:100a
- 労働力:夫婦、年雇用4名、期間雇用(10ヶ月)3名、短期5名

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- ハウス自動開閉システム(サンクルシステム(株))、(グリーンラボ)
- ハウス複合環境制御装置(ニッポー)
- 自動かん水装置(ヒロ電工)
- 光合成促進装置(フルタ)
- 定点カメラによるセンシングシステム(メルヘングループ)
 - ・画像から開花数、果実数を計測、数値化し収穫日、収穫量等を予測。出荷計画に活用。(実証中)
- 土壌環境モニタリングシステム(クロップウオッチ)
 - ・土壌センサーを用い、水分や養分などの土壌環境指標をモニタリングしスマートフォンなどで確認。かん水装置と連動し自動で土壌を最適化。(一部ハウスに実装)
- ほ場に風速計、雨量計を設置し見える化(サンクルシステム(株))



ハウス内の様々なデータを確認



ハウス複合環境制御装置(高速高濃度CO2センサ)

③導入の経緯

- より効果的な生産方式を模索していた時に県内外の生産現場を視察する機会があり、システム導入の効果を見聞きし導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 持続的生産強化対策事業のうち次世代につなぐ営農体系の確立支援(H31年度)
- 産地パワーアップ事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 作業時間の短縮
 - ・システムを組合せて導入したことによって離れた所でハウスの状況が確認できるため移動時間等が削減され全体の農作業が効率的に行えるようになった。
- 生産量(単収)が増加
 - ・IT企業と連携し、データを効果的に活用することにより導入前約10t/10aから平均20t/10aに増収。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 3~5年後には作付面積を100aから150aへ規模拡大(離農者からハウス付き農地の取得を予定)
- 西都市全域が取り組む「西都市農業DX化計画」に参画
 - ・通信ネットワークを構築し通信費の軽減を図る。
 - ・IOT技術、AI技術を使い生産性向上、高収益化を目指す。

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県宮崎市田野町
- 経営体名: JAみやざき宮崎中央地区本部田野支店
胡瓜部会
- 栽培作物: つる下ろし栽培胡瓜
- 作付面積: 16.7ha ○会員数: 49人

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- モニタリング機器(会員導入率約82%)
プロファインダー((株)誠和)
- 光合成促進機(会員導入率100%)
(ネポン株式会社)



ハウス内センサー



ハウス横作業場内モニター等

③導入の経緯

○平成23年に視察した県外の取り組みを参考にJA営農指導員とともにハウス内環境を「数値」で把握し、理想の環境下で収量向上を図るため、同年に部会で研究を開始するとともに数名の会員が先行して導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

○なし

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 収量の増加
導入前: 16トン/10a(部会平均)
導入後: 20.6トン/10a(部会平均(令和7年))
- 売上の増加
10aあたり約222万円の増
(483円/10a × 4.6トン増: 単価は令和6年部会実績)
- 部会内で勉強会を組織し、生育調査やデータ分析を実施しており、導入により部会全体の技術向上を担っている。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

○メーカーにより測定精度にばらつきがある。このことから当部会では同一機器を導入している。



外部センサー

ハウス内
宮崎県拠点(令和8年3月)確認

①経営体の概要

- 所在地:宮崎県門川町
- 経営体名:門川町高糖度トマト生産組合7戸
- 栽培作物:高糖度トマト
- 施設面積:4ha(年3作)



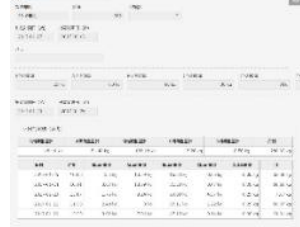
ハウス外観

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- クラウドサービス: kintone(ダンクソフト社)
- 営農支援サービス: RightARM(テラスマイル社)



←【kintone画面】



【RightARM画面】→



③導入の経緯

- 出荷先であるJA日向の糖度センサー一体型選果機施設設置をきっかけに、組合員の栽培状況や品質情報(特に糖度)の共有や効率的な出荷体制確立の必要性を感じたため。

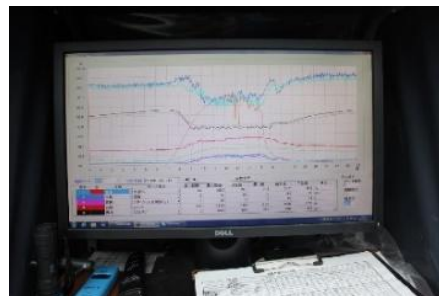
④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- なし

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 組合員は栽培管理データと出荷量・糖度などの選果実績をリアルタイムで情報共有し、組合員間で週1回勉強会を開催している。最大の収益をあげる栽培方法を考察することにより、品質向上につながっている。

- 各組合員は、週間出荷予測データをタブレットに入力し、JAへ報告するとともに、JA担当者と週1回販売会議を行い、取引先の需要に合わせた販売体制を構築できた。出荷量不足による欠品が減り、取引先からの信頼が向上した。



栽培管理モニター



ハウス内

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 現在、原因不明の病害の発生等で収穫量が低下しており今後、各組合員が更に細かくデータを入力し、栽培管理記録を蓄積し分析することで、原因究明など新たな技術向上につなげたい。

- ハウス内に定点監視カメラやWebカメラを設置し、作業映像の共有による組合員のオンライン実習や後日の勉強会動画資料として活用してみたい。また、遠隔地から生育状況把握が出来るようにしたい。

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県門川町
- 経営体名: K.T Farm
- 栽培作物: ミノトマト
(高軒高ハウスによる養液栽培)
- 施設面積: 27a



ハウス外観

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 総合環境制御システム
(温度・湿度・照度・CO₂濃度測定・窓の開閉等)
- 菜援(SAIEN)[神港テクノス社(株)]



管理モニター



制御装置(一部)

③導入の経緯

- 栽培管理において、経験と勘だけに頼ってものを数値化することにより、栽培経験の浅い従業員でも年間を通して安定した品質で計画的な出荷を可能とするため。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- H29年度産地パワーアップ事業(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

【導入後の効果】

- ハウス内の環境データがスマホに共有出来るため、夜中などでもハウス内の環境が分かり、設定温度変更や窓開閉等の操作が適時でき省力化につながるとともに気分的にも安心できた。



ハウス内

- システムを導入したことにより、きめ細やかな管理につながり、所属するミノトマト部会の平均単収に比べて1.5倍～2.0倍程度の増収があった。

- 従業員でもデータを確認することで栽培管理の共有化を図ることができた。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

【課題等】

- システムに適正な温度やCO₂濃度を自分の判断で設定する必要があり、試行錯誤の日々であるが、消費者のため更なる品質向上を図りたい。

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県門川町
- 経営体名: 株式会社ひむか野菜光房
- 栽培作物: リーフレタス(水耕栽培)
- 施設面積: 66a
- 従業員: 役員4名、パート社員38名
- 設立: 平成24年6月設立
- 異業種(機械製造業、農業、卸売業等)が連携し参入



ハウス内

②導入技術・システム (商品名・サービス名と企業名)

- 栽培管理制御システム(株式会社プランツ)
- 販売管理システム(自社開発)



栽培管理モニター



販売管理モニター

③導入の経緯

- 天候等に左右されやすい野菜生産を栽培管理制御システムを導入することにより、年間を通して安定した品質で計画的な出荷を可能とするため。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 宮崎県の「宮崎発・農商工連携ビジネスモデル創出事業」を活用(H24年度)。

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

【生産の安定】

- 自然光の変化に対応したICT利用による細かい環境制御で安定生産。

- 8,000株/日生産と年19回の回転率を確保。



根切り器(自社製)

【安定生産により販売先確保】

- 最低1週間前までに販売先から注文を受付け、販売管理システムで、生産量・在庫量をもとに、販売先及び販売量を一括管理して計画的に出荷。

- 物流問題を背景に、南九州を中心とした販売先への出荷。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 現在のところ特になし。

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県薩摩郡さつま町
- 経営体名: 吉祥庵園芸
- 経営概要: トマト32a(ロックウール栽培21a、袋培地栽培11a)
(定植: 8月 収穫: 10月～7月)
- 従業員数: 家族4名、臨時雇用6名

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【給液システム】

スイコーマンα
(株)誠和



スイコーマンα

【環境制御装置】

プロファインダー、Next80
(株)誠和



プロファインダー



Next80

【作業・労務管理システム】

アグリボード((株)はれると)

③導入の経緯

- 平成23年、環境制御に係る研修会(福岡県などのトマト農家の現地視察)に参加し、トマト栽培における光合成の重要性、高収量を目指したハウス環境の制御及び栽培管理の重要性を感じ、平成24年に環境モニタリング装置(プロファインダー)を導入し、環境制御の取り組みを始めた。
- 理想とするハウス環境に整えるためには多くの管理労力が必要であったこと等から、平成28年に統合環境制御装置(Next80)の導入に踏み切った。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- さつま町認定農業者等支援事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 給液システムと環境制御装置の連動で、より精密管理で省力化・負担軽減を図り、栽培管理に労力投入が可能に
 - ・ 湿度や日射など複数の要素でハウスを管理
 - ・ 生育状況、天候に合わせた環境条件設定
 - ・ スマホでハウスの管理状況を確認・操作
- 品質の向上と収量が増加
 - ・ 病気の発生が減少(灰色カビ病)
 - ・ 目標としていた30t/10aを達成。特に単価の高い冬場の収量が増加(導入前比16%増)
- リアルタイムで作業等進捗状況の見える化が可能に
 - ・ 離れたハウスの収穫作業が終了したことを手元で確認できることで、効率的に選果場へ搬入
 - ・ 作業(誘引、脇芽取り、収穫等)の進捗を即時に確認
 - ・ 品種ごとの、収穫量比較

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 生育状況の見極めと栽培管理判断のためには、人間の目と手による生育調査(茎径、葉の大きさ、開花位置等)と、栽培方法の改善(記録、改善、実践)が重要ではあるものの、画像で生育調査を行えるシステムの開発が望まれる。
- 高温対策が課題なので、遮熱塗装、外気導入と気化熱による昇温抑制の取組を行っている。

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県志布志市
- 経営体名: 株式会社Farmers Villa Ume
代表取締役 梅沢健太
- 栽培作物・作付面積: 施設ピーマン・92a
- 従業員数: 9 名 (令和 8 年 4 月現在)



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【統合環境制御装置】

- House NAVI ADVANCE
換気NAVI、灌水NAVI
(株式会社ニッポー)



【労務管理】

- マネーフォワードクラウド
(株式会社マネーフォワード)



③導入の経緯

- ピーマンの単収アップ等を目的に、スマート農業実証プロジェクトに取り組んだ。
- 労務管理をペーパーで行うことは、集計、書類作成等に多大な時間を要していた。また、従業員が休暇等を気兼ねなく申請できる仕組みづくりが課題であったことから、令和2年にマネーフォワードクラウド及びLINE利用を導入した。



④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- スマート農業実証プロジェクト(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

【統合環境制御装置】

- ・ データ集計・分析が手軽で、社内・仲間との情報交換が容易となった。
- ・ 収穫量の増加。(平成24年: 16t → 令和2年: 20t)
- ・ ハウス管理の遠隔操作。



【マネーフォワードクラウド】

- ・ 労務管理を一元管理することで時間短縮、簡素化が図られた。
- ・ 管理データのクラウド化することで、施設内の環境がいつでもどこでも見えるようになった。
- ・ 各種アプリの導入で勤怠、給与等の集計が簡素化された。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- ハウス内環境データを収集したあとのデータの活用が課題
- 労務管理は、さらにDX化を推進し生産性を向上させたい。

全ては働く人のためにをモットーに



収量増加、生産性向上、費用対効果、コスト削減とか全ては人が絡んで成り立つもの。



①経営体の概要

- 所在地:長崎県西彼杵郡長与町
- 経営体名:山口 直輝
- 栽培作物:温州みかん 2.5ha、他
(マルドリ方式栽培 温州みかん 12a)
- 作業員数: 24人(家族4人、期間雇用20人)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- クラウドかん水装置 Air Rain (BH株式会社)
- 液肥混入器ミックス ライトTF-5-002
- 【実証時】バッテリー式環境計測装置(温・湿度センサー、土壌水分量センサー、Leaf Sensor、日射量センサー)
- 【実証後】温・湿度センサー PonTsuke ((有)トーワテック)



クラウドかん水装置で管理

③導入の経緯

- システム導入により、将来的に広範囲での自動かん水および同時施肥制御が可能となる点に興味を持った。
- 実証ほ場において電源および井戸水が確保できる環境が整っていたため導入を決めた。



温州みかん園場

④導入に当たり活用した事例があればその事業名(国、県)

- スマート農業技術の開発・実証プロジェクト

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 導入前は、果実の生産が多雨や少雨などの天候の影響を強く受けていた。また、繁忙期には必要な施肥を適期に行うことができなかった。
- 温・湿度センサーにより、園地全体の気温・湿度の変化をリアルタイムで把握できるようになった。その結果、必要なかん水や施肥を適切に行えるようになり、収量が安定するとともに品質も向上した。特に、隔年結果が弱まり収量の安定が図られた。
- また、かん水、施肥はスマートフォンから行うことができるため作業が簡素化され、労働力の削減につながった。
- 通常使用する肥料に比べて液肥の単価は高いものの、成分の土壌流出が抑制される等、施肥効果が高く、年間を通した肥料費は従来と変わらなかった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 当農園において本システムの利用拡大を図るためには、通信設備や灌漑設備の整備に加え、新たな水源の確保が課題となっている。
- クラウド通信利用料、バッテリー交換等費用、センサーの保守料等のランニングコストに対する支援を求めたい。

①経営体の概要

- 所在地: 熊本県球磨郡錦町
- 協議会名: 錦町スマート農業推進協議会
- 構成団体等: 球磨地域振興局、錦町、JAくま、NOSAI熊本、
農業者2名
- 稼働台数: 17台 (令和8年度新規導入予定3台)



傾斜地の果樹園で稼働するロボット草刈機(ロボモア)



②導入技術・システム (商品名・サービス名と企業名)

【自律走行無人草刈機】

- ロボモア(KRONOS) 和同産業株式会社

③導入の経緯

- 錦町役場、球磨地域振興局等の担当者と連携し、果樹園においてスマート農業機器の導入により農作業の省力化を目指す。
町内の果樹農家に対して実演会(令和4年10月17日、約30名参加)を開催。傾斜に一番強いロボモアを選定。

④導入に当たり活用した補助事業等 (国、県)

- 町の単独事業
導入費用については、本体、電磁誘導線(エリアワイヤー)及び 設置費、充電ステーション等を含め約80万円。
総費用の1/2を町が支援することにより、複数の農家が導入した。

⑤導入してどうだったか (その1 導入前との比較、効果)

- ロボット草刈機(ロボモア(全自動))
農作業の時間短縮や作業効率に繋がった。また、本体の後方に点滅灯を装着することで、夜間はその光が動いてシカやイノシシ避けとして効果があるなど、生産者から高評価を得ている。

⑥導入してどうだったか (その2 改善してほしい点、課題)

- 障害物に接触する本体前方の強度の改善と、本体及びバッテリーの長寿命化をメーカーに要望している。

①経営体の概要

- 所在地:福岡県内
- 経営体:酪農(家族経営)
- 飼養頭数:経産牛100頭、1頭当たり乳量は9000kg強
- 従業員数:6名(経営者家族3名、外国人技能実習生3名)
(令和7年7月現在)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【自動エサ寄せロボット】

○MOOV 2.0(オリオン機械株式会社製)

[MOOV 2.0 | オリオン機械 酪農機器](#)



③導入の経緯

○飼料給与の概要

- ・飼料は、粗飼料約4割、配合飼料約6割とエコフィードの焼酎粕をミキサーで混合して給与
- ・自給飼料は、耕畜連携(耕種農家約10戸、約30ha)によるWCS用稲と、自家でWCS用稲と飼料用大麦合わせて2ha作付

○導入の経緯

- ・業務の円滑化を図るため、業務のマニュアル化や省力機械の導入を検討していた際、令和3年、コロナ禍により外国人技能実習生が不在となり、労働力不足対応のため導入した。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 令和3年度 ふくおかの畜産競争力強化対策事業(県単事業 畜産DX推進対策)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- チップを床に埋めて動線を設定する工事を付帯し、12回/日、2時間ごとに自動エサ寄せする設定。
- 床に埋め込んだチップで設定された動線により牛が首を出す柵から50cmの幅を取って安定して移動する。
- 自動で充電ステーションに戻り充電する。
- エサ寄せにより牛の採食量は確実に増える。同時に残飼が減る。
- 採食量増により搾乳牛1頭・1日当たり1kgの乳量増。
- 約3年間使用の間、特段の故障はなく、電池の寿命も来ていない。消耗品の交換を自分でする。
- 自動エサ寄せロボットの労働時間節減効果
 - ・手作業によるエサ寄せ時間:10分/回 × 4回/日 = 40分/日
 - ・年間節減時間:40分/日 × 365日 ÷ 60分/時間 = 243時間

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 自動エサ寄せするときに、エサが多くあるところから少ないところに量を調節する機能が加わることを期待したい。

①経営体の概要

- 所在地: 大分県竹田市
- 経営体名: 株式会社古澤畜産
- 経営概要: 肉用牛繁殖
- 従業員数: 7名

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 分娩監視通報システム: モバイル牛温恵
- 牛監視カメラ: 大英システム
- 哺乳ロボット: FORSTER TECHNIK
- 牛群管理システム: ファームノート

③導入の経緯

- いつ始まるか分からない分娩・発情の兆候を把握するため通報システム・監視カメラを導入
- 子牛の哺乳作業の省力化ため哺乳ロボットを導入
- 手書きによる牛毎の飼育管理記録の記載漏れ等、ヒューマンエラーをなくすため牛群管理システムを導入

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

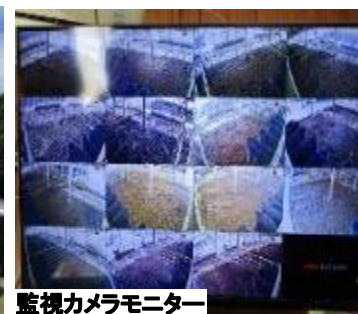
- 畜産クラスター事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 分娩・発情の兆候をスマートフォンで把握できることから夜間の見回り等の負担が大きく軽減
- 監視カメラは発情行動の画像をAI技術で発見しスマートフォンに通知。また、録画画像によって未然の事故等防止対策が可能
- 哺乳ロボットで自動的に哺乳することで省力化
- 牛ごとの飼育管理記録を手書きとシステム入力を併用することでリスクマネジメントが図られた
- 新たに畜舎を整備する際、あらかじめICT技術の導入を見据えて整備したことでスムーズにICT化に取り組めた

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- ICT技術導入後の機材修理代等のランニングコストが掛かる



監視カメラモニター



哺乳ロボット

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県新富町
- 経営体名: 酪農経営 株式会社本部農場
- 飼養頭数: 経産280頭、未經産牛等130頭
- 従事者数: 9名(家族4人、従業員5名、技能実習生2名)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 次世代閉鎖型牛舎(Panasonic社製)
- 搾乳ロボット(GEA社製)
- 哺乳ロボット(GEA社製)
- 自動餌寄せ機(GEA社製)



次世代閉鎖型牛舎



搾乳ロボット



哺乳ロボット

③導入の経緯

- 規模拡大(増頭)効率化の推進
 - ・搾乳時の労働時間の削減
 - ・哺乳時の労働負担軽減



④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 畜産クラスター事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 飼養管理の省力化(1日当たりの作業時間の減少)

	導入前	導入後
【搾乳ロボット】	4人×2回×3時間 (24/人・回・時間)	1人×2回×1時間 (2/人・回・時間)
【哺乳ロボット】	2台稼働中	

- 次世代閉鎖型牛舎(暑熱対策効果)搾乳ロボットによる搾乳量の増加

	導入前	導入後
夏場の乳量(1頭当たり平均):	28kg/日	→ 30kg/日
年間の乳量(1頭当たり平均):	31kg/日	→ 34kg/日

- 規模拡大(搾乳牛の増頭目標): 効率化・省力化により、300頭まで増頭させる



搾乳ロボット



次世代閉鎖型牛舎の横断換気

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 送風ファンに牛の体毛等が目詰まりすることから、定期的な清掃が必要。

①経営体の概要

- 所在地: 宮崎県高千穂町
- 経営体名: 肉用牛繁殖 田邊貴紀
- 飼養頭数: 繁殖雌牛110頭
- 従事者数: 4名



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 分娩監視装置「モバイル牛温恵」(株)リモート
- ・モバイル牛温恵とは、親牛の体温を監視することで、分娩の細かい経過や発情の兆候を検知し、メールで飼養者へお知らせするシステム



〔親機〕



〔体温センサー〕



〔スマホへお知らせ〕

③導入の経緯

- 親元就農として平成13年に就農し、平成27年から経営主となる。
- 両親が高齢化する中、規模拡大を図るためICTの導入を検討。
- 分娩管理において、飼養者の負担が大幅に軽減できる事を知り、平成27年12月に「モバイル牛温恵」を導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 生産性向上等支援事業(H27年、県単)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 導入前と比較して、分娩の事故が大幅に減少した。

○スマホで分娩予定を確認できるため、牛の見回り回数が減少した。
(特に夜間の見回り減少(約2~3回→1回)は助かっている。)

○分娩予定を把握することにより、仕事の段取りが行えるようになり、仕事の効率化が図られるとともに、気持ち的にも余裕が持てるようになった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 現在のところ特になし



宮崎県拠点(令和8年3月)確認

①経営体の概要

- 所在地:宮崎県串間市
- 経営体名:酪農経営 城薫
- 飼養頭数:経産牛 約75頭(搾乳牛 約60頭)育成牛 約40頭
- 従事者数:4名(経営主夫婦、両親)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 搾乳ロボット:LELY社製(オランダ) アストロノートA4
- ソフトウェア:アストロノート専用飼養管理ソフト「T4C」



LELY社製搾乳ロボット



タッチパネル式モニター

③導入の経緯

- 将来を見据え、子供たちが見て、やりたいと思える酪農経営実現のための先行投資と考え、フリーストール牛舎の新設と搾乳ロボットの導入を決意。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 畜産クラスター事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 搾乳ロボットの導入により、これまで朝夕1日2回ミルカーにより家族総出で搾乳していた労働時間(約2時間×2回)の削減が図られ、特に両親への負担が解消されたことにより、家族経営による規模拡大が可能。
- 飼養規模の拡大目標(搾乳牛)。
 - ・70頭(R元) → 100頭(R5)(増頭中)
- 1日1頭当たり平均乳量の増加。
 - ・フリーストール牛舎による快適な環境と搾乳ロボットにより牛が搾りたいタイミングで昼夜問わず搾乳が可能。
 - ・約30kg → 約37kg(R2.1月現在)
- 牛を観る時間が増えるとともに、飼養管理ソフトのデータにより、これまで以上に牛群の健康管理が可能。
- 分娩監視・発情発見装置(牛温恵)の導入により、分娩兆候の見回りが削減。



搾乳を待つために列を作る牛



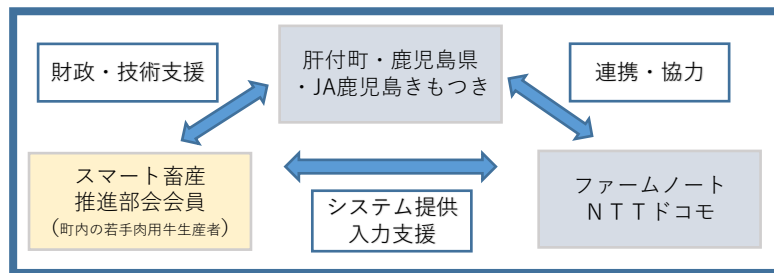
搾乳の様子

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- フリーストール牛舎になった当初は、繋ぎ牛舎との飼養の違いに苦労。
- 今後増頭するに当たり、牛舎のふん尿処理が妨げとなっており、省力化を踏まえた対策が必要。

①経営体の概要

- 町が、肝付町スマート畜産推進部会（町内の若手肉用牛生産者で45才以下の20名を対象）を対象に、アプリケーションを同時に実装。これまで個人利用していたデータを指導関係機関で共有し現場の営農指導に生かそうという取り組みは国内初
- 自治体と地域内外の関係機関が三位一体となったプロジェクト



②導入技術・システム（商品名・サービス名と企業名）

- ファームノート、ファームノートカラー

③導入の経緯

- 畜産の生産基盤の強化が喫緊の課題となっており、その対策の一つとして、ICTを活用したスマート畜産の推進により、地域の畜産の安定的な発展を目指す

④導入に当たり活用した補助事業等（国、県）

- 町単事業により、ファームノートの利用料を町が全額負担
- 県単事業により、ファームノートカラー等の機器を導入

⑤導入してどうだったか（その1 導入前との比較、効果）

- 生産性の向上
 - ・分娩間隔の短縮による出荷頭数の増加
 - ・情報の見える化による管理指導の強化
 - ・労働力軽減のほか、生産性と収益向上への貢献
 - ・畜産分野におけるスマート農業の先進モデル化
- 波及効果
 - ・実際にシステムを利用することで、その費用対効果を体験
 - ・費用対効果を実感することにより、システムの導入や地域への普及が促進

⑥導入してどうだったか（その2 改善してほしい点、課題）

- 課題
 - ・導入時の基礎データや発情分娩等の情報入力に慣性化が必要
- 今後の展望
 - ・人工授精師や獣医まで情報の共有範囲を拡大
 - ・今年度の実装の成果を踏まえ、更なるスマート農業の推進や普及を目指す



ファームノートカラー
（牛の首に装着）



令和元年8月28日プロジェクト発表

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県肝属郡肝付町
- 経営体名: 村商株式会社(新村畜産)
- 経営概要: 和牛一貫経営 飼養頭数約2,100頭
牧草地約50ha 水稻7ha
- 労働力: 雇用20名
(職員8名、パート1名)、技能実習生11名

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 自動給餌機: fujiki(株)
- 分娩監視カメラ: (株)USEN
- 牛の行動モニタリングシステム「U-motion®(ユーモーション)」
: デザミス(株)

③導入の経緯

- 牛は、夏場の昼は暑さで食欲がないこともあり、涼しい夜間に給与することや分娩事故を防ぐことを目的に自動給餌機及び分娩監視カメラを平成30年に導入した。あわせて、牛の行動をリアルタイムで監視して健康状態を把握するため牛の行動モニタリングシステム「ユーモーション」を導入した。



自動給餌機



分娩監視カメラ

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- なし。

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 自動給餌機の導入により、肥育牛は1日5回の定時の飼料給与で涼しい夜間にも給与できることで牛の増体が良くなった。また、飼料給与に係る労働力の軽減が図られた。
- 監視カメラの導入により、分娩時や牛の異常時に早急な対応が可能となり、事故防止につながった。
- ユーモーションの導入により、24時間監視が可能となり、監視カメラと併用することで、牛の異常時の確認や対応がさらに速やかになった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 現在、分娩は、昼間と夜間で半々であるが、昼間に100%分娩することができれば、大幅な効率化・省力化が期待されることから給与時間の設定などを研究している。
- ユーモーションについて、飼養管理台帳など生産工程管理とリンクした有効活用ができないか検討中である。

- 今後、飼養管理、飼料の配合割合などのデータやユーモーションで得られたデータを分析し経営改善に役立てること。また、指導できる人材の育成が必要である。



首にユーモーションセンサをつけた牛

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県肝属郡肝付町
- 経営体名: 村商株式会社(新村畜産)
- 経営概要: 和牛一貫経営飼養頭数2,100頭 牧草地50ha 水稲7ha
- 労働力: 雇用20名
(職員8名、パート1名)、技能実習生11名

②導入技術・システム(商品名・サービス名、企業名)

- 給排水管保全装置(エルセ): エルセエナジー(株)
- U-SONIC(ウルトラファインバブル発生装置): 穂栄(株)
- マイクロフォガー: (株)イーエス・ウォーターネット
- ミルメーカー: オバナヤ・セメントックス(株)

③導入の経緯

- 水が本来持っている「抗酸化力」、「溶解力」、「浸透力」、「洗浄力」を高め、配管の老朽化対策や「抗酸化力」が向上した水を与えて、牛の成長をサポートするため、平成30年7月に給排水管保全装置(エルセ)を導入。また、給排水管保全装置(エルセ)を通し、更に効率良く高濃度酸素水を補給し、肉質向上、夏バテ防止、発育促進を図るため、令和元年6月にU-SONIC(ウルトラファインバブル発生装置)を導入。
- 冷房・消毒殺虫・防臭・加湿・防塵により、牛のストレス軽減を図り、病気予防、食欲増進を図るため、平成31年2月にマイクロフォガーを設置。
- 一定した溶解品質(濃度・温度)、簡単操作(マイコン制御方式(自動計量・自動溶解))で牛の人工哺育をサポートし、代用乳作製時間を短縮するため、令和元年9月にミルメーカーを導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

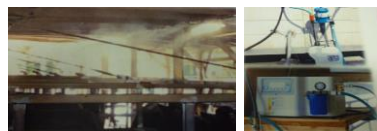
○なし

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 給排水管保全装置(エルセ)及びU-SONIC(ウルトラファインバブル発生装置)の導入により、高濃度酸素水を補給することで牛の呼吸代謝を旺盛にし、成長促進に繋がっている。
- マイクロフォガーの導入により、健康で快適に過ごせる環境が整い、ストレス軽減が図られたことで、夏バテ防止、病気予防、食欲増加に繋がった。
- ミルメーカーの導入により、一定した溶解品質(濃度・温度)、簡単に操作できるマイコン制御方式(自動計量・自動溶解)により代用乳作製時間の短縮に繋がった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 複数のシステムや機器を導入したことにより、牛舎全体をオール電化としたが、停電時の電力確保が課題となり、発電機を別途導入した。



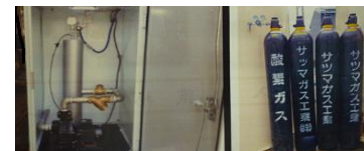
マイクロフォガー



ミルメーカー



給排水管保全装置 エルセ



U-SONIC(ウルトラファインバブル発生装置)

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県大島郡徳之島町
- 経営体名: 株式会社永吉ファーム
- 経営概況: 肉用牛(繁殖)

繁殖牛約798頭、子牛約460頭、飼料畑65ha

- 労働力: 役員5名、従業員9名、臨時雇用2名



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【モニタリングシステム】

センスハブ(1台)

首用タグ(200台)

(MSDアニマルヘルス(株))

【分娩監視用カメラ】

MOWCAM(16台)

((株)コア・ポート)

【哺育ロボット】

カーフフィーダー(8台)

(ドイツ フォスターテクニカ社)



首用タグ



分娩監視用カメラ(移設可能タイプ)



哺育ロボット子牛ケージ



哺育ロボット及び確認用端末

③導入の経緯

- 規模拡大に伴う、繁殖牛の飼養管理が煩雑となったことから、行動・繁殖管理など、広範囲(200m×500m)をカバーできるセンスハブを導入。
- 毎月約50～60頭の分娩による、精神的、肉体的負担の軽減や分娩事故の低減のため分娩監視用カメラを導入。
- 常時約200頭(子牛識別タグを装着)の子牛の哺乳や病気の発見・予防のため、哺育ロボットを導入。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 畜産収益力強化緊急支援事業(国)
- 畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業(国)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- モニタリングシステムにより、人の目では把握しきれない牛の重要な行動(活動量、反芻等)が分析され、発情検知や健康状態等の情報がスマホにプッシュ通知によりリアルタイムに確認でき適期受精が可能になった。
- 分娩監視用カメラにより、夜間の分娩の様子を監視することで、分娩対応時間の軽減と分娩事故が減少。
- 哺育ロボットでは、哺乳にかかる時間が大幅に短縮し、ほかの作業にかかる時間を増やすことができた。また、注意すべき子牛の情報が通知され、病気の早期発見が可能となり、子牛の事故率が低減。
- ICT機器を導入することで、労働時間が短縮され、雇用者の就業時間が8時から17時に設定でき、雇用確保に繋がった。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 様々なICT機器を導入しているが、それぞれが独立しており、一元的に管理できるシステムがあれば、効率的に利用でき、かつ、経費も安くできると考える。

①経営体の概要

- 所在地：鹿児島県熊毛郡南種子町
- 経営体名：有限会社小脇牧場
- 経営概要：乳用牛約230頭、育成牛約120頭
肉用牛（繁殖和牛）約230頭、子牛約100頭
自給粗飼料：25ha（借地含む）
※主に和牛用（冬：イタリアン、夏：ローズグラス）
- 従業員数：家族4名、従業員3名、繁忙期の臨時雇用2名



②導入技術・システム（商品名・サービス名と企業名）

【搾乳ロボット】

アストロノートA4及びA5：
LELY（レリー）

【小型活動量計】

@MOWMENT）：
（株）カスケディア・トレーディング

【哺乳ロボット】

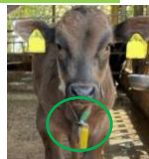
オリオン（株）

【餌寄せロボット】

JUNO：LELY（レリー）



搾乳ロボット



小型活動量計



哺乳ロボット



餌寄せロボット

③導入の経緯

- 外国人技能実習生を受け入れていた時期があったが、指導したとおりの作業が進まず、乳質が落ち乳房炎が増加したため、乳用牛を減らすことになった。現在は、外国人技能実習生の受け入れを止め、搾乳ロボットを4機導入し運用している。

④導入に当たり活用した補助事業等（国、県）

- H29年度酪農経営体生産性向上緊急対策事業（国）
- H30年度草地畜産基盤整備事業（国）

⑤導入してどうだったか（その1 導入前との比較、効果）

- 搾乳ロボット導入の最大のメリットは、1日3回の搾乳が楽になった。《1日：3人×5h→1日：2人×3h（稼働状況の見回りは適宜）》また、データによる乳質管理が可能になるとともに、乳房炎の頭数が減り、乳質も向上した。
- 小型活動量計（個体識別タグと活動量計内蔵）から、搾乳ロボットシステムに牛の行動等のデータが送信され、そのデータで発情を判断できるようになり、受胎率が向上。また、アラートによる『事前予防処置』の効果により、病気を事前に防ぐことができ、健康で価値のある子牛が増えた。
- 哺乳ロボットで哺乳にかかる時間が少なくなるとともに、初乳等を冷却貯蔵及び殺菌し子牛の哺乳に利用することで子牛の発育向上や代用乳の購入コスト抑制に繋がった。
- 餌寄せロボットが自動的に餌を押してくれるので労働時間が短縮された。

⑥導入してどうだったか（その2 改善してほしい点、課題）

- 搾乳ロボットは、A5（新型）で乳房装着は良くなったもののハイブリッド化されたことで不具合が分かりづらくなった。またサービス拠点から離れているため、搾乳ロボットの故障発生時はユーザー自ら対応する機会が多い。そのため対応用品の在庫量確保が望まれる。

①経営体の概要

- 所在地：鹿児島県肝付町後田
- 経営体名：株式会社中野ファーム
- 経営概要：黒毛和種繁殖雌170頭、育成牛18頭 平均分娩間12.1月
- 労働力：6名、(本人夫婦、長男夫婦、次男夫婦)
 - ※急用等で誰が抜けてもカバーできるように、家族全員が飼養管理できる体制をとっている。
- スマート機器の活用状況
 - ・牛の健康管理と、発情時期の的確な把握による受胎率向上のため、ユーモーションを利用。
 - ・分娩事故の減少や立会い作業等の労力軽減のため、AI検知式の監視カメラに更新。

②導入技術・システム(商品名・サービス名、企業名)

- 商品名：ユーモーション(牛の活動を計測し、グラフ表示)
- 企業名： desamis デザミス株式会社
- 特徴：発情兆候や疾病傾向などをアラートやグラフで確認し、早急に対応可能
- 商品名：NiLiMoライブモニタリングシステム
- 企業名：株式会社ニコン ソリューションズ
- 特徴：分娩開始前から分娩後まで幅広くAIが監視・通知

③導入の経緯

- 規模拡大に伴い増頭した繁殖牛の発情、人工授精、分娩などの管理作業が過重となっていたため、見直しや改善の必要性を感じていた。
- 息子たちが農業大学校で学んできたICT技術を生かす機会ととらえ、システムを取り入れた。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 畜産経営緊急支援対策事業(鹿屋市)

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

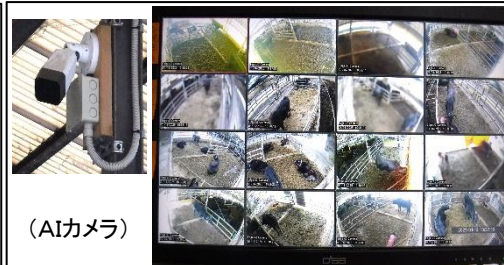
- 出産前後の母・子牛の状態を確認するため、その都度スマートフォンを起動して監視カメラ画像を確認していたが、AIが分娩兆候・開始や授乳を検知し、その状態を音声で通知してくれるため、スマホを触る手間が大幅に減り、他の作業を集中してできるようになった。
- グラフ化されたデータで、人工授精に最適なタイミングを判断できる。
- 平均分娩間隔は12.1カ月前後で、優れた繁殖成績を達成している。
- まとまった休みが取れるようになり、子供、孫たちと過ごす時間が増えた。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 分娩室に2～3頭入れるが、AIカメラでは牛の個体識別ができないため、通知された牛がどれかわからない。
- AIカメラの方向調整等がメーカーでないとできず、その代理店が熊本県にしかないことから対応に時間を要する。



家族全員が飼養管理できる体制



(AIカメラ)

全分娩室の状況が確認できるモニター画面



ユーモーションの取り付け



行動アラートやグラフ表示から発情兆候を確認し、種付けのタイミングを計る

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県薩摩郡さつま町
- 経営体名: 永江 陽平
- 経営概要: 繁殖牛約33頭、子牛約18頭、飼料畑3ha
- 従業員数: 3名(令和8年3月現在)



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【発情検知システム】

AIカメラ2台、通信ゲートウェイ

【分娩予兆検知システム】

IPカメラ2台、照度センサー付き
LEDライト2台、通信ゲートウェイ

MOOVIE (モービー)
(ファーマーズサポート(株))



分娩予兆検知システム

③導入の経緯

- 自宅と牛舎が離れていることから、見回りの身体的負担や発情の見逃しや分娩事故による経営的な損失が課題であった。また、牛への負担が少ない機器を検討していた。
- そこで、この課題を解決するために、令和5年12月に、牛房2か所にそれぞれ発情検知システムを、分娩房2か所にそれぞれ分娩予兆検知システムを導入した。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

—

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

○ 発情検知システム

乗駕行動を検知する発情行動の通知がスマートフォンに送信され、カメラ映像による確認が可能となっている。また乗駕行動の発生時刻がわかるため、受胎率の高い時間帯(発情終了後6時間から12時間)を狙った受精が容易となり、1年1産に近づけることができた。

○ 分娩予兆検知システム

分娩予兆(尾の挙上、羊膜、子牛のひづめ)の通知と画像がスマートフォンに送付されてくるため、システム導入後は分娩事故は起きていない。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- より効率的な受胎管理のため、MOOVIEアプリに空胎期間等のデータ管理の機能の付加が望まれる。



スマートフォンへの通知



発情検知システム

①経営体の概要

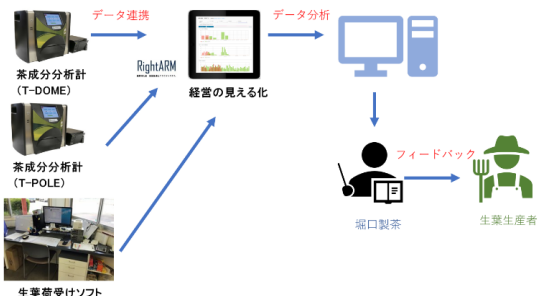
- 所在地：鹿児島県志布志市
- 経営体名：鹿児島堀口製茶(有)
- 栽培作物・作付面積：茶（自社120ha・生葉生産者180ha）
- 従業員数：85名（令和8年4月現在）



②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

【経営支援プログラム】

- RightARM
（テラスマイル(株)）
- 自社で生育予測を自動算出できるツールを開発



③導入の経緯

- 圃場700枚、多品種10茶種の加工が煩雑で摘採適期の判断が難しかった。
- 自社で管理している圃場だけでなく、生葉生産農家約70名も含めた管理。
- 各種情報やデータを集めたものをうまく活用できていない。
- 集めた情報やデータを集約するのに時間がかかり、関わる業務の人たちと共有して意思決定する時間が不足。



④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- スマート農業実証プロジェクト(国)

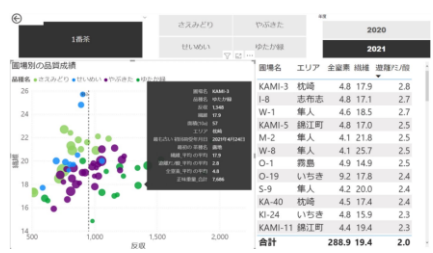
⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 導入後、摘採に関する情報を円滑に活用できるようになったことで、摘採と加工が両輪となって高い収益性を維持できている。(経営の見える化を実現)
- ・ 翌日以降の摘採計画を立てるための時間が削減された。
- ・ 数日先の摘採計画が精度を上げて把握できて摘採計画変更の精度があがり、摘採計画決定が時間短縮できた。
- ・ 加工量が多くなる前に事前に把握ができ、工場の稼働率を最大限に生かした。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 摘採計画の一元管理とリアルタイム共有により、情報伝達コストを削減し、品質向上に注力することが可能となった。次へのステップとして、摘採計画策定の支援に加え、今後は実績と紐付けたデータ管理や振り返りを可能とする機能に期待。

経営の見える化（圃場カルテ）



生産者、圃場、品種、年度などの項目でシートをかけることで、圃場内の茶成分や収量を一括で比較することが可能

個々の農業者で成分等の分析をしても、データの蓄積が限られているため比較検証が難しいことが、産地全体で取り組むことで期待する効果が見られる